

汚染による褥瘡悪化から改善が見られた一症例

尾鷲総合病院 NST&CP Complex (NCC)

嶋本 早起 加藤 弘幸 谷 ちづる 上岡 容子 川口 恵 大川 光
大川 貴正 矢賀 進二 中井 りつ子

【はじめに】褥瘡の危険因子に栄養障害が上げられる。褥瘡が形成されると著しいエネルギーの消耗が見られ、患者のADLや予後に大きく関わってくる。患者のエネルギーバランスを考慮した栄養管理を行い、褥瘡が改善した症例を経験したので報告する。【症例】83歳男性 平成26年1月9日尿路感染症にて入院 歩行困難 意識清明 仙骨部に持ち込みの褥瘡有り (DESIGN-R D4-18点) の患者【経過】身長160cm 体重45.0kg BMI17.6 AF1.1 SF1.2 必要エネルギー1416kcal 1月16日NST初回回診時、嗜好強く、主食のみ摂取している状態であり、病棟よりメイバランス・F2 α ・テルミールミニ付加し必要エネルギーを満たしていた。微量栄養素の欠乏の可能性あり、褥瘡改善見られていなかったため、テルミールミニからアルジネードに変更とした。しかしその後、下痢・軟便が続き、便による感染から褥瘡の悪化が見られ (DESIGN-R D4-49点) 2月13日アルジネード1本追加し、朝メイバランス・昼夕アルジネード各1本で経過を見た。アルジネード追加から1週間後には改善がみられ (DESIGN-R D4-28点)、現在褥瘡改善傾向にて経過中 (DESIGN-R D4-16点)。便汚染に関しては看護師側の工夫によって改善された。【まとめ】便汚染に関しての工夫・アルジネード追加により深さには変化が見られないが、褥瘡は改善が見られている。